大田区立田園調布中学校　校内研修報告

令和７年３月２５日

本校では、大学講師クラスの講師を年間３回程度お招きし、大田区が掲げる次のような目標達成に向けて、校内研究を行いました。

・「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善に取り組み、教員一人一人の指導力向上を図るとともに、児童・生徒の学力向上に資する。

・授業改善と教員の指導力向上に裏付けされた ICT を活用した授業を充実させる。

令和６年度の本校の研究テーマ

ユニバーサルデザインの視点を生かした授業改善

本校の実施した３回の研修の＜成果と課題＞をホームページに掲載させていただきます。来年度も引き続き、授業改善に励んでまいります。

令和６年６月５日　　13 時 30 分～16 時

ユニバーサルデザインの視点を生かした授業改善

大田区発達障がい支援アドバイザー　　南　俊彦　先生

＜成果と課題＞

ユニバーサルデザインの視点を意識した指導案を作成し、実際に授業を南先生に見ていただいた。成果として、具体的に授業の工夫、物理的環境、人的環境についての改善の指摘を受け、共有したことで、どの教科にも応用できる改善策が明確になった。今後はそれぞれの授業でも継続していくことが課題である。

令和６年９月４日　　13 時 30 分～16 時

ユニバーサルデザインを取り入れた授業改善　道徳科授業の在り方を考える

東京都人権施策専門家会議　元委員　早稲田大学大学院　元客員教授　　大江　近　先生

＜成果と課題＞

本校主幹教諭の授業を大江先生に見ていただき、その後、研究討議を実施、最後に指導・講評をいただいた。道徳科の授業について、ねらいの設定や主題にせまる発問など、ご指導いただいた。今後は研修で学んだ留意点を確認しながら、それぞれの教員が道徳科の授業づくりをしていくことが課題である。

令和６年１０月９日　　13 時 30 分～16 時

QU の視点を踏まえ、ユニバーサルデザインを取り入れた授業改善

早稲田大学　非常勤講師　公認心理士　博士（教育学）　　髙橋　幾　先生

＜成果と課題＞

QU アンケートの分析から、本校の傾向として孤立による不安、緊張型の学級経営となっていたことがわかった。各学級の雰囲気は良好のため、このギャップへの対応が課題である。すぐに解決できない場合は共有しながら学校全体で対応していくことが求められる。